

ORICON

2014年3月期 第3四半期決算説明会

2014年2月7日

2014年3月期 第3四半期決算の概要

スマートフォン向けの売上が着実に拡大

スマートフォン向け音楽配信サービス : 前年同期比29.8%増

スマートフォン向けサイトの広告販売 : 前年同期比95.5%増

フィーチャーフォン向け着うたフル・着うたの売上が減少 (着メロは増加)

着うたフル : 前年同期比36.9%減

着うた : 前年同期比39.7%減

顧客満足度(CS)ランキング連動型広告は堅調に推移 (前年同期比1.4%増)

当期よりビッグデータ関連への投資を積極的に実施(当該投資に関わる営業費用:67百万円)

CSR活動の一環として太陽光発電事業を開始(売電収入:23百万円)

再生可能エネルギー分野での産学連携を開始

・東工大・和田研との共同研究を開始(共同研究等に係る費用:6百万円)

・株式会社StoM(代表取締役社長 小濱泰昭東北大学名誉教授)との資本業務提携契約を締結

着うたフル・着うたの減収額の影響が大きく

連結業績

売上高	: 3,838百万円 (前年同期比 9.5%減 400百万円減)
営業利益	: 495百万円 (前年同期比 7.4%減 39百万円減)
経常利益	: 466百万円 (前年同期比 5.0%減 24百万円減)
四半期純利益	: 249百万円 (前年同期比 0.6%減 1百万円減)

連結損益計算書



(単位:百万円)	2013年3月期 第3四半期累計	2014年3月期 第3四半期累計	増減	
			金額	増減率
売上高	4,239 (100%)	3,838 (100%)	400	9.5%
売上原価	2,485 (58.6%)	2,103 (54.8%)	382	15.4%
差引売上総利益	1,754 (41.4%)	1,735 (45.2%)	18	1.1%
販管費	1,219 (28.8%)	1,240 (32.3%)	20	1.7%
営業利益	534 (12.6%)	495 (12.9%)	39	7.4%
経常利益	491 (11.6%)	466 (12.2%)	24	5.0%
税金等調整前 四半期純利益	480 (11.3%)	470 (12.3%)	10	2.2%
四半期純利益	251 (5.9%)	249 (6.5%)	1	0.6%

主な減収要因

着うたフル [428百万円減(36.9%減)]

着うた [67百万円減(39.7%減)]

雑誌事業 [137百万円減(13.9%減)]

主な増収要因

スマートフォン向け音楽配信

[70百万円増(29.8%増)]

WEB広告販売

[46百万円増(6.4%増)]

着メロ [111百万円増(43.7%増)]

一昨年11月にセガカラMelody事業を
譲受したことによるもの

太陽光発電事業 [23百万円]

モバイル事業の売上減少に伴い、
音源使用料が248百万円減少。

ビッグデータ関連の投資に関わる費用:

67百万円

再生可能エネルギー分野における

産学連携の取り組み:

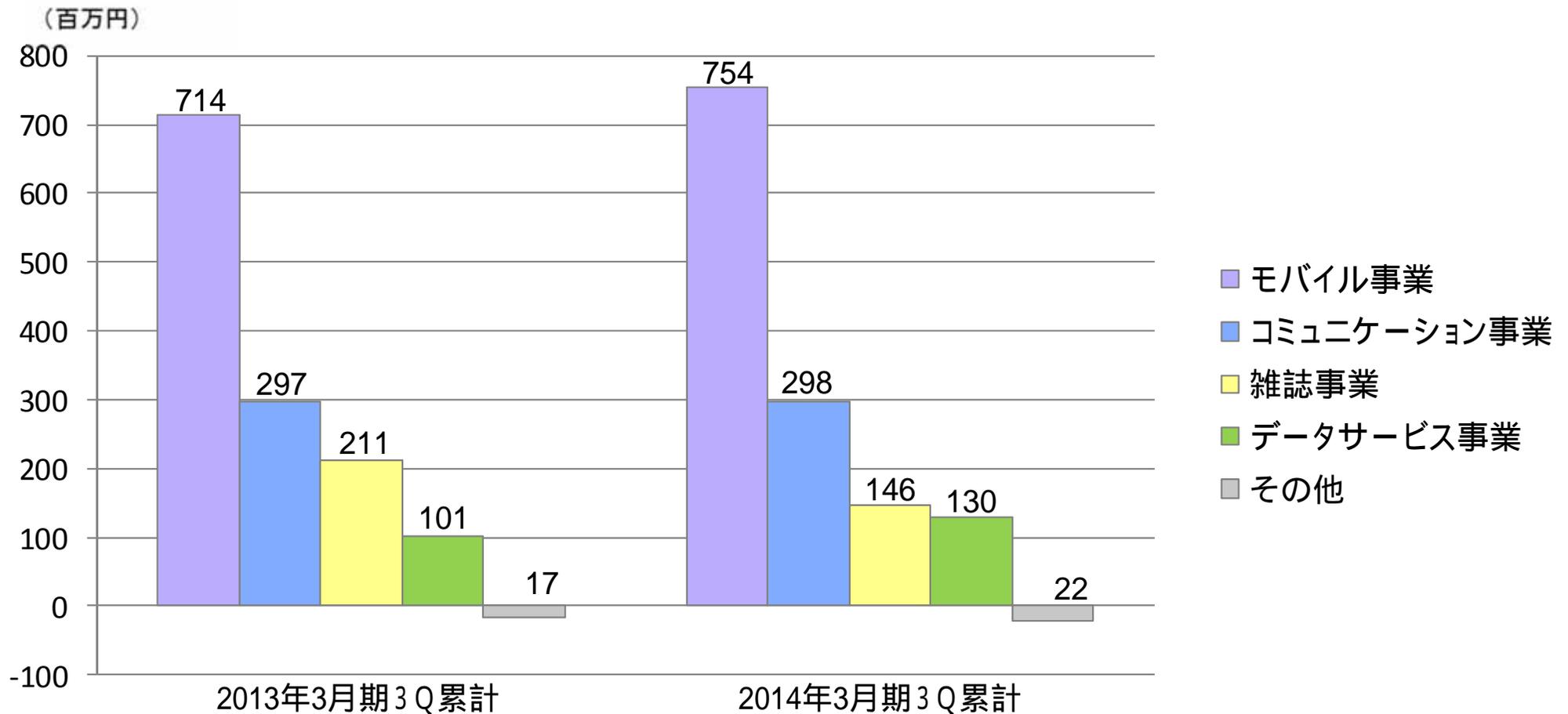
東工大との共同研究等に係る費用6百万円

報告セグメント別売上高



	2013年3月期 第3四半期累計	2014年3月期 第3四半期累計	増減	
			金額	増減率
(単位:百万円、百万円未満を切捨て)				
コミュニケーション事業	800	830	29	3.7%
WEB広告販売	737	784	46	6.4%
CSランキング連動型広告	366	371	5	1.4%
バナー型広告・タイアップ型広告等	371	412	41	11.3%
データ販売・コンテンツ販売等	63	45	17	27.4%
モバイル事業	1,899	1,574	324	17.1%
フィーチャーフォン向け	1,662	1,267	395	23.8%
着メロ	254	365	111	43.7%
着うた	171	103	67	39.7%
着うたフル	1,160	732	428	36.9%
情報系等	76	66	10	13.4%
スマートフォン向け音楽配信	237	307	70	29.8%
雑誌事業	987	850	137	13.9%
データサービス事業	399	406	7	1.8%
その他(ソーシャルゲーム事業、売電収入等)	151	175	24	16.4%
売上高合計	4,239	3,838	400	9.5%

セグメント利益



モバイル事業は、着うたフルと着うたの売上減少による減益の影響があったものの、利益率の高い着メロの売上が増加したことによる増益効果があり、セグメント利益は増加。

コミュニケーション事業は、WEB広告の増収による増益効果があったものの、一昨年8月に事業撤退した法人向けフィーチャーフォン用コンテンツ販売の売上が発生しなかったことが影響し、セグメント利益はほぼ横ばい。

当社グループにおいて、スマートフォンへの対応を強化・推進させるため、経営資源の効率的かつ効果的な活用を図り、展開力と競争力を向上させる目的で携帯電話向け音楽配信サービスを行う 株式会社 oricon ME と、「ORICON STYLE」サイトの運営を行う オリコンDD株式会社 とを合併させ、新・株式会社 oricon ME が発足。(2013年4月1日付)

前第3四半期累計期間
< 旧・oricon ME + オリコンDD >

売上高 2,700百万円

営業利益 1,011百万円



当第3四半期累計期間
< 新・oricon ME >

売上高 2,405百万円(前期比10.9%減)

営業利益 1,053百万円(前期比4.1%増)

ニュース配信事業の収益を含む

連結貸借対照表



(単位:百万円)		2013年3月期末	2014年3月期第3四半期末	増減
資産合計		4,454	4,470	15
	流動資産	2,263	2,165	98
	有形固定資産	536	563	26
	無形固定資産	1,152	1,246	93
	投資その他の資産	495	490	5
	繰延資産	6	4	1
負債合計		2,429	2,354	75
	流動負債	1,869	1,822	47
	固定負債	560	531	28
純資産合計		2,025	2,116	91
	株主資本	2,009	2,105	96
	その他の包括利益累計額	0	0	1
	新株予約権	14	10	3

総資産は15百万円増加。ビッグデータ関連の投資に関わる資産の増加額は有形固定資産51百万円 + 無形固定資産68百万円。負債合計は75百万円減少。短期借入金の増加、社債の減少が、主な変動要因。

純資産は91百万円増加。配当金117百万円の支払があったものの、四半期純利益249百万円を計上したため。自己資本比率は47.1%となり、前期末比2.0ポイント上昇。(前年同期末と比べれば1.1ポイントの上昇)

自己株式の取得

株主還元を充実させるとともに、経営環境の変化に対応した機動的な資本政策の遂行を可能にするため、2013年11月20日から2013年12月20日において、自己株式100,000株（発行済株式総数に対する割合：0.6%）を東証JASDAQ市場において取得。



2014年3月期第3四半期末において、自己株式1,160,000株（発行済株式総数に対する割合：7.3%）を保有。

配 当

2013年11月8日に公表した「年間配当金を前期と実質的に同水準に据え置き、当期の期末配当金を1株につき8円とする」という配当予想から現時点において変更はありません。

（前期の期末配当金は1株につき800円でしたが、2013年4月1日付で普通株式1株を100株にする株式分割を行っており、これを考慮し、当期の期末配当金の額を1株につき8円としております。）

伸長事業の状況

顧客満足度(CS)ランキング連動型広告

一昨年10月以降、3ジャンル(歯科の自由診療分野)を終了させ、新たに5ジャンル(来店型保険ショップ、食材宅配サービス、ネットスーパー、海外旅行保険、オンライン英会話)を追加

終了ジャンルの減収分を補い、安定的に収益を拡大<売上高:前年同期比1.4%増>

SEO効果も睨み、各ジャンルのコンテンツを継続的に拡充

データ販売も堅調

2014年3月14日(予定)に各ジャンルで今年度1位となった企業を表彰する授賞式を開催

スマートフォン向け「ORICON STYLE」サイト

閲覧数が増加し、サイトに掲載する広告のパフォーマンスも上昇してきたため、広告販売が好調<売上高:前年同期比95.5%増>

サイト全体の視認性を中心に、ユーザビリティの向上に注力

当社グループのスマホ向け音楽配信サービス「オリコンミュージックストア」への誘導を強化

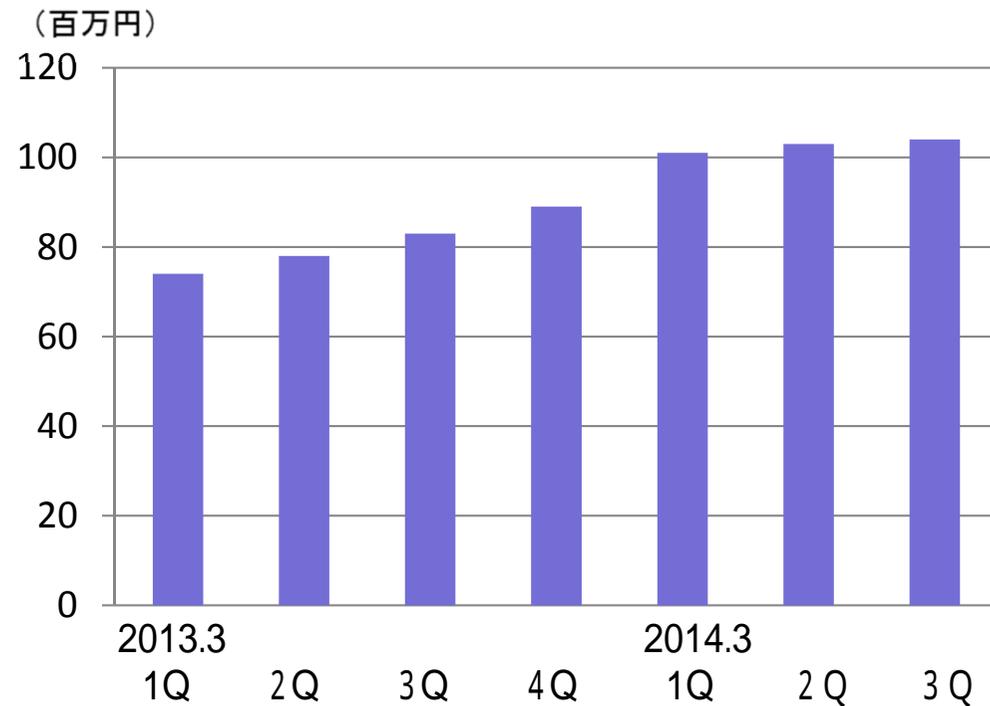


スマホ向け「ORICON STYLE」サイトのトップページ



スマホ向け「オリコンミュージックストア」のトップページ

「オリコンミュージックストア」の売上高推移



四半期ごとに着実に売上が増加。

ブラウザー上で楽曲のダウンロードと課金決済を行う仕様に変更。これによって、専用アプリのダウンロードが不要となり、スマホ向け「ORICON STYLE」サイトから誘導されてくるユーザーが増加。楽曲購入促進に寄与。

継続的にサービスを拡充

音楽ビデオクリップの販売を開始(2013年10月～)

OpenIDへの対応を開始(2013年10月～)

PC (Win/Mac) 向けサービスを開始(2013年12月～)

iPhone・iPadへの対応を開始(2014年1月～)

今後もユーザー満足度を
高める施策を継続的に実施



PC向け「オリコンミュージックストア」のトップページ

当期より開始した新たな取り組み

旧来より行ってきたエンタテインメントデータベースを利用する事業を拡充・発展させるため、ビッグデータを活用して新たなサービスを開発・開始させるべく、2014年3月期において、ビッグデータ関連の投資を積極的に実施。

ビッグデータを高速で処理・分析することが可能なソフトウェア (SAS® Office Analytics) とサーバー (データ容量: 32テラバイト、最大毎秒8.6ギガバイトのデータの検索が可能) を導入。機械学習、テキストマイニング、クローリングなどの研修を全社員を対象として実施。統計学の専門家であり、金融分野での実務経験を持つデータサイエンティスト数名を採用。



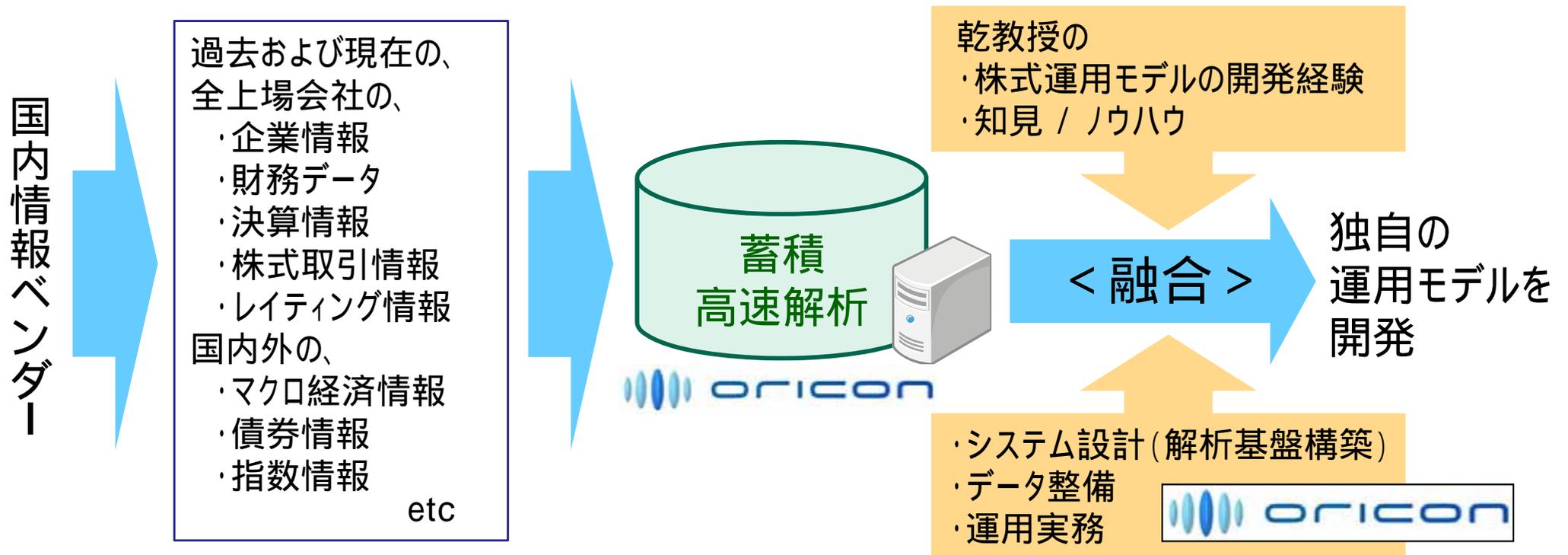
今後、ビッグデータを活用するサービスやソリューションが増えてくることが見込まれるため、2013年12月2日付でオリコンDサイエンス株式会社を当社の完全子会社として設立。

ビッグデータを活用する取り組み

ビッグデータを活用する新たなサービスの第一弾として、日本株式の運用モデルの開発に着手

2013年7月

明治大学総合数理学部乾孝治教授(金融工学が専門)との産学連携の共同研究を開始



現在、解析作業が進んでおり、可及的早急に運用モデルを構築できるよう注力

今後、共同研究によって開発された運用モデルを活用し、新たなサービスの提供を開始

予定している個人向けサービスの概要

- ・最適ポートフォリオの提示(保有銘柄の最適な構成比率を提案)
基本的なサービスは無料で提供し、さらに利便性を高めたサービスを有料会員向けに提供
- ・株式運用シュミレーションゲーム、教育用アプリの提供

現在、Google社の検索サービスにおいて「ネット証券」で検索を行うと、当社グループの「オリコン顧客満足度ランキング・ネット証券ランキング」のページが検索結果の第1位に表示。このページより、当新サービスに個人ユーザーを効率良く誘導することができるため、ユーザー獲得を行う上で、優位なポジションで当新サービスを開始することが可能。

金融機関など法人向けにサービスを提供することも視野に入れ、サービス開発を推進

- ・CSR活動の一環として、太陽光発電事業をスタート。
- ・2013年7月13日より、九州電力に売電を開始。
(第2四半期 + 第3四半期の売電収入:23百万円)
今後、20年間、安定的に売電収入が得られる見通し。
(年間44百万円 ~ 48百万円になる見込み)



長崎県大村市の太陽光発電所

政府が目指している電力の自由化を睨み、再生可能エネルギーの分野で有望と考えられる技術や製品の開発に経営資源を投入するなど、当該分野において、さらに踏み込んだ事業展開を図っていくことにしました。

今後、安定的に売電収入が得られますので、売電によって生じるキャッシュ・フローの範囲内で、産学連携による研究開発や他社との協業などを進めていく方針といたしました。

東京工業大学大学院理工学研究科応用化学専攻・和田研究室との共同研究

< 2013年10月31日付で共同研究契約を締結 >

共同研究の内容: マイクロ波の再生可能エネルギー分野への応用 他

(詳細については非公表)

共同研究等に係る費用として6百万円を計上

株式会社 StoM との資本業務提携 < 2013年11月1日付で資本業務提携契約を締結 >

マグネシウム発電の研究者である東北大学名誉教授小濱泰昭氏が設立した株式会社 StoM が行う第三者割当増資をオリコン・エナジー株式会社が引き受けた。

取得価額は1,012万円(株主構成: 小濱泰昭89.7%、オリコン・エナジー10.3%)

マグネシウム関連製品の製品化と知的財産の創出を協同で実施。

今後、特許出願を行ったことなど公表すべき事象が発生した場合には、関係先との調整を行った上で、速やかにお伝えするよういたします。

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は、今後の様々な要因により大きく異なる可能性があります。

着うた、着うたフルは、株式会社ソニー・ミュージックエンタテインメントの登録商標です。

その他記載されている製品名、サービス名などは、該当する各社の商標または登録商標です。

オリコン株式会社

IR用ホームページ

<http://www.oricon.jp/>